

Light weight open sports 自分らしさを表現できる、新たな価値観のクルマ ライトウエイト・オープンスポーツ

「コペン」登場!

内外装脱着構造で着せ替え可能なクルマ

最近では軽自動車の販売が絶好調。今では新車として売られるクルマの40%以上を占める。フルモデルチェンジした新型車のコペンは、軽自動車の世界をさらに広げるクルマといえるだろう。軽自動車では珍しい2ドアクーペで、天井を電動で開閉できるアクティブトップを備える。今のクーペは、輸入車も含めて大半が3ナンバー車だから、運転のしやすい軽自動車は魅力的。しかも手軽にオープンドライブを楽しめるため、注目度はきわめて高い。

そしてもうひとつ、内外装を脱着できて、購入後に外観を変えられることも大きな特徴だ。従来とは違う新しいクルマづくりに乗り出した。

エンジンはターボで、装備も充実させて、価格は179万8200円(CVT、一部地域を除く)。天井が電動で開閉するクーペとしては買い得だ。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351(代表)

ダイハツ
新型
コペン
特集号



CVT車は25.2km/ℓで、
エコカー減税「免税」対象



クロス コペンX(仮称) 秋に発売予定 その後第3のモデルも登場予定、新たな提案へ



■コペンXはじめ新デザイン続々登場

2014年6月に発売されたコペンは、「コペン ロープ」と呼ばれる。いわば標準モデルで、この後にも外観の異なるコペンが投入される。

2014年の秋に発売されるのはコペンX(クロス)モデルだ。基本部分はコペン ロープと同じだが、フェンダーなどの形状や色彩は異なり、SUV風に上げていることが特徴。このコペンXモデルの外板は、コペン ロープとの互換性がない。

そしてコペンXモデルの後も「第3のコペン」が控えているという。丸型のヘッドランプが特徴で、外観の印象は先代コペンに近い。そして「第3のコペン」の外観は、コペン ロープと互換性があり、購入後にフロントマスクなどを変えることが可能になりそうだ。



第3のモデル

主要諸元	コペン	
	SMT	CVT
トランスミッション	SMT	CVT
駆動方式	FF(前2輪駆動)	
全長×全幅×全高(mm)	3,395×1,475×1,280	
ホイールベース(mm)	2,230	
トレッド(前/後mm)	1,310/1,295	
室内(長×幅×高mm)	910×1,250×1,040	
車両重量(kg)	850	870
最低地上高(mm)	110	
最小回転半径(m)	4.6	
乗車定員(人)	2	
エンジン型式	KF型	
種類	水冷直列3気筒12バルブDOHCインタークーラーターボ機構	
総排気量(cc)	658	
最高出力(kW<PS>/rpm)	47<64>/6,400	
最大トルク(N・m<kg-m>/rpm)	92<9.4>/3,200	
JCO8モード燃費(km/ℓ)	22.2	25.2
燃料タンク容量(ℓ)	30	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
ステアリング形式	ラック&ピニオン	
サスペンション 前/後	マクファーソン・ストラット式コイルスプリング/トーションビーム式コイルスプリング	
ブレーキ形式 前/後	ベンチレーテッドディスク/リーディング・トレーリング	
タイヤ	165/50R16	75V

主要諸元表はメーカーの発表を基に作成しています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

軽自動車5車種に特別仕様車「スマートセレクション」

■タント、ムーヴなどには特別仕様車のスマートセレクション

ダイハツは新たに、「スマートセレクション」と呼ばれる特別仕様車のシリーズを発売。タント/ムーヴ/ムーヴ コンテ/ミライース/ミラココアの5車種に設定した。

特別装備の内容は車種によって異なるが、タントのスマートセレクションSAであれば、衝突の回避を支援するスマートアシスト、スーパーUV&IRカットガラス、スーパーエアクリーンフィルターが備わる。いずれの車種も、スマートセレクションは装備に対して価格を割安に抑えている。



動感と流麗さを実現した
スタイル、デザイン



シャシー（透過図）

■スタイルとデザイン

今回登場したコペンは「コペン ロープ」と呼ばれる。2014年の秋には、外観がSUV風の「コペンX(クロス)モデル」も登場する予定だ。

コペン ロープはフロントマスクが鋭角的で、グリルの開口部も大きい。ボディサイドには、後ろに向けて持ち上げたラインが入り、躍動感を強調している。16インチのアルミホイールを全車に標準装着したことも特徴だ。

軽自動車とあって、全長は3395mm、全幅は1475mmとコンパクト。クーペでありながら、混雑した市街地や狭い駐車場でも扱いやすい。



歩行者傷害軽減ボディ

衝突安全ボディと
歩行者保護

■安全性能

外板に樹脂を使って軽量化を図る一方、衝突安全「TAF」ボディの採用で、衝突時の衝撃吸収と、乗員の保護も入念に行っている。衝撃を受けた時、加えられた力を車両全体に効果的に分散させることが可能だ。横転時に備えてロールバーも装着している。接触した歩行者を保護する機能も高めた。

事故を避ける安全装備としては、横滑り防止装置のVSC & TRCを装着。アクセルとブレーキペダルを両方とも踏んだ時、自動的にエンジン出力を抑えるブレーキオーバーライドも備わる。

55km/h 前面衝突実験 64km/h オフセット衝突実験



デュアルSRSエアバック

55km/h 側面衝突実験

55km/h 後面衝突実験

850kgを実現、燃費は25.2km/ℓ

■軽量で低燃費

Dフレームの採用でボディ剛性を向上させながら、外板には樹脂を多用して、車両重量は850～870kgと軽い。電動開閉式の天井を備えたクーペでは、世界的に見ても最軽量の部類に入る。

加えてエンジンは、658ccの排気量ながら、ターボの装着によって最高出力は64馬力（6400回転）、最大トルクは9.4kg-m（3200回転）に達する。軽いボディと相まって、加速性能にも余裕を持たせた。

その一方で、エンジンや駆動系の摩擦を抑え、燃費も良好だ。CVT（無段変速AT）仕様は、アイドリングストップも装着して、JC08モード燃費は25.2km/ℓに達する。5速MT仕様にはアイドリングストップが備わらないが、22.2km/ℓだから、動力性能を考えれば良好といえる。



コペン ロープ インパネ（ベージュインテリアバック）

内装はスポーティで上質

■シートヒーターも標準装着

趣味性で選ばれるクーペの場合、外観と同様に内装の見栄えや操作感も大切だ。コペンはこの点にも力を入れた。インパネの上面は緩やかにカーブを描き、中央部分にはオートエアコンの吹き出し口や操作パネルがコンパクトに収まる。カーナビやオーディオは、その上側（メーターの左側）に配置される。

つくり込みは細部まで上質で、インパネの中央や助手席の前側にはカーボン調の装飾も施した。オープンモデルとあって、シートヒーターも標準装着されている。



7速スポーツアクティブシフトのCVT

5速マニュアルトランスミッション

電子カードキー

チルトステアリング

ツィーター

カーボン調インパネカーニッシュ

16cmスピーカー

センターコンソールボックス（キーロック付）& カップホルダー

シートヒーター

LOVE LOCAL by COPEN

ローカルと未来をつなぐ「未来のオープンカー」が、クルマづくり、仲間づくりをサポート

■新たな活動—コペンローカルベース、コペンサイト

コペンの販売面のキーワードは「LOVE LOCAL by COPEN」。軽自動車の商品特徴に合った地域密着型のローカルな販売活動を行う。この象徴が「コペンローカルベース」だ。友人や仲間と気軽に集まれるカフェで、オリジナルメニューなども提供する。車両の販売やメンテナンスは行わず、コペンのオープンカーライフの魅力を純粋に発信していく。一方、「コペンサイト」では、コペンスタイリスト（コペンに詳しいスタッフ）が常駐して、ユーザーの相談に応える。このコペンサイトも、地元の特産を生かしたファンサービスを行う。コペンはドレスフォーメーションとの連携で、その地域の風土に合ったオープンモデルをめざす。ローカルと未来をつなげるクルマといえるだろう。



Dフレームでスポーツカーの剛性と乗り心地

■「クルマって楽しい!」を実現

コペンはオープンスポーツカーだから、タントやムーヴと違って、天井まで使ってボディの剛性（ネジリとか曲げに対する強さ）を確保することはできない。ボディの下側だけで、十分な剛性を持たせる必要がある。

そこで新開発されたのが「D-Frame（Dフレーム）」だ。プラットフォームのベースは、前輪駆動を採用するダイハツの軽自動車だが、ボディの底（床下）を徹底的に補強して強度を高めた。

さらにボディの側面、フロントウィンドーのマド枠なども強固につくり込んでいる。その結果、ボディ上下の曲げ剛性は先代コペンの3倍、ねじり剛性は1.5倍に達し、走行安定性を高めた。



D-Frame



D-Frame 補強部位



D-Frame

フロント、サイド、リア、フロアを切れ目なくつなぐ構造とし、高い曲げ剛性・ねじり剛性を実現。走りの爽爽、静粛性にも大きく貢献。■補強部位は樹脂製の部品も使用されている。

お客様の嗜好に合わせたデザイン選択

■ドレスフォーメーション

画期的な試みとされるのが「DRESS-FORMATION（ドレスフォーメーション）」だ。外観をボンネット／フロントバンパー／フロントフェンダー／リアバンパーなど、13個の樹脂パーツの集合体と考え、脱着を可能にした。買った後で外装パーツを交換し、デザインやボディカラーを変更できる。外観を新車のように一新させることも可能だ。

また、ドレスアップを手掛けるアフターパーツのメーカーにも、ダイハツはボディの構造や寸法などの情報を開示している。今後はユーザーが好みに応じて、個性のある外装パーツを選べるわけだ。外装が樹脂だからこそ、ボディ外板の交換も可能になった。



DRESS-FORMATION 樹脂外板

作業イメージ

樹脂外板の採用、樹脂燃料タンクで軽量化
（次世代の素材を先行採用）

■樹脂外板の採用など

外板を樹脂製にしたことは、コペンに数多くのメリットをもたらした。前述のドレスフォーメーションもそのひとつだが、軽量化にも注目したい。電動開閉式のアクティブトップ、横滑り防止装置のVSC、キーフリーシステムなどを備え、衝突安全性も高めて、車両重量は5速MTが850kg、CVT（無段変速AT）も870kgに収まる。外板を樹脂製にしたことで軽量化が可能になった。

燃料タンクも樹脂製で軽く、走行性能を向上させている。そして樹脂は鉄に比べて成形に使う金型が安く、コストの低減も可能だ。成形時のムダも少ない。樹脂外板はタントも採用しているが、今後は使用がさらに拡大する。コペンは将来のクルマ造りも先取りしたわけだ。

操縦安定性と空力性能、エキゾーストサウンドで
走りのスポーツカー実現

■走行安定性や空力特性

低重心のスポーツカーとあって、コペンは走行安定性も優れている。特に注目されるのは、後輪の接地性が優れていること。高速道路を走行中に横風にあおられたり、峠道などのカーブに差し掛かった時でも、後輪がしっかりと踏ん張って不安定な状態に陥りにくい。その上で操舵に対する車両の動きを正確に仕上げ、上質で楽しい運転感覚を実現させた。

優れた走行安定性の背景にはボディ剛性の向上もあるが、空力特性にも注目したい。後輪側の揚力（ボディを持ち上げる力）を先代コペンに比べて60%低く抑え、後輪の接地性と走行安定性を高めた。Cd値（空気抵抗係数）も6%低減され、燃費の向上に貢献している。



軽量な3気筒DOHCターボエンジン

音を楽しむ独自のチューンを施したマフラー

ENGINEER'S VOICE

開発者の声 ダイハツ工業 チーフエンジニア 藤下 修さん



コペンは「選べる楽しさ」を追求したクルマです。電動開閉式のアクティブトップにより、オープンとクローズドの走行を楽しめます。CVTはDモードのほか、Sモードを選ぶとスポーティな変速操作も可能です。ドレスフォーメーションにより、外観も変更できます。そして販売面では新しい取り組みを開始します。全国に約70店舗を設置する「コペンサイト」では、外板の交換などを含め、専用の「コペンスタイリスト」がおお客様の要望や相談にお応えします。またコペンファクトリーでは、コペンを製造する過程も見られます。ディーラーやメーカーを、お客様の身近な存在にするのがコペンといえるでしょう。車両の企画や開発、生産、販売まで、新しい試みをしていきます。



好みに合わせて
選べる全8色